

名寄市地域内フィーダー系統確保維持計画 事業評価について

令和6年12月
名寄市地域公共交通活性化協議会

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 年 月 日

協議会名:名寄市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
名士バス(株)	下多寄線 西風連～風連駅～名寄駅	利用者数の維持・増加を図るため、アンケートを実施し、利用者満足度調査や、乗降場所指定場所の見直しに取り組んでいる。 新規利用者拡大のため、町内会等の地域住民の会合における事業周知を実施している。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	・デマンド型交通の利用者数の向上 対象地域からの転出や自然減等による利用対象者減となり、月平均利用者数 目標200人／月 → 実績114人／月であった。 ・デマンド型交通の利用者満足度の向上 目標100% → 100% 令和6年4月～5月実施のアンケート調査において、満足度の「満足」及び「やや満足」が100%を達成した。 ・効果 冬季間のみならず、通年の利用があり、住民への交通手段の提供が適切に行われた。	運行開始から13年を経過し地域への定着は着実に進んでいる。 しかし、対象地域からの転出や自然減等による利用対象者減となり、利用者が伸び悩む結果となった。新規利用者拡大のため、あらためて町内会等の地域住民の会合等における周知を実施していく。 利用者アンケート調査では、満足度が100%と非常に高いため、引き続き利用者のニーズに応じることができるよう、継続した運行を計画する。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 年 月 日

協議会名:名寄市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
名士バス(株)	御料線 風連日進～風連町内～道の 駅	利用者数の維持・増加を図るため、アンケートを実施し、利用者満足度調査や、乗降場所指定場所の見直しに取り組んでいる。 新規利用者拡大のため、町内会等の地域住民の会合における事業周知を実施している。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B ・デマンド型交通の利用者数の向上 対象地域からの転出や自然減等による利用対象者減少により、月平均利用者数目標200人／月に対し、実績83人／月であった。 ・デマンド型交通の利用者満足度の向上 目標100% → 100% アンケート調査結果において、満足度の「満足」及び「やや満足」が100%を達成した。 ・効果 冬季間のみならず、通年の利用があり、住民への交通手段の提供が適切に行われた。	運行開始から6年目を経過したところであり、引き続き地域への定着を図っていく必要がある。現状、定期利用者がおり、定着は進んではいるものの、対象地域からの転出や自然減等による利用対象者減少により、利用者数が伸び悩む結果となった。新規利用者拡大のため、あらためて町内会等の地域住民の会合等における周知を実施していく。 利用者アンケート調査では、満足度が100%と非常に高いため、引き続き利用者のニーズに応じることができるよう、継続した運行を計画する。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名：	名寄市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	名寄市は、北北海道の中央に位置し、面積は535.23Km²、人口27,282人(国勢調査)の規模である。 近年、人口の減少や自家用車の普及により、路線バスの利用者が低迷し、効率的な方法による公共交通の運行が必要となっており、クルマを所有していない市民も数多く存在しているため、「買い物」や「通院」等の移動に困らない交通システムの確保が求められている。 当該デマンド交通の運行地域は、住居が低密度に広く分散し路線バスの利用がしづらい交通空白地帯である。日常生活に不可欠な地域の交通手段の確保とともに、当市に所在するJR名寄駅、風連駅と居住地域を結節し交通のネットワークを形成する目的で導入しているものである。

名寄市地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

名寄市では近年、人口の減少や自家用車の普及により、路線バスの利用者が低迷し、効率的な方法による公共交通の運行が必要となっており、クルマを所有していない市民も数多く存在しているため、「買い物」や「通院」等の移動に困らない交通システムの確保が求められている。

当該デマンド交通の運行地域は、住居が低密度に広く分散し路線バスの利用がしづらい交通空白地帯である。日常生活に不可欠な地域の交通手段の確保とともに、当市に所在するJR名寄駅、風連駅と居住地域を結節し交通のネットワークを形成する目的で導入しているものである。

生活交通確保維持改善計画の目標

名寄市郊外部においては、定時定路線型の路線バスでは、非効率な運行となり、また、交通サービスレベルが低下すると考えられる。さらに高齢者は、バス停留所までの移動距離に対して負担を感じており、デマンド型交通の導入によって、交通空白地帯を解消するとともに、「買い物」や「通院」等の日常生活に必要な「地域の交通手段」を確保する。

【具体的目標】

デマンド型交通(下多寄線)の利用者数の向上 → 目標200人／月

デマンド型交通(御料線)の利用者数の向上 → 目標200人／月

デマンド型交通(下多寄線)の利用者満足度の向上 → 目標100%

デマンド型交通(御料線)の利用者満足度の向上 → 目標100%

令和6年度事業概要

下多寄線(西風連～風連駅～名寄駅)

運行回数 往路4回・復路5回

御料線(風連日進～風連町内～道の駅)

運行回数 往路5回・復路5回

【下多寄線】

	風連 2区	下多寄 3区	下多寄 4区	下多寄 5区	風連 豊里	西風連	共和	豊栄
風連地区まで	300円	300円	300円	300円	300円	400円	400円	500円
名寄地区まで	600円	700円	700円	600円	500円	800円	400円	300円

地域公共交通の現況

- ・JR宗谷本線(名寄、風連、名寄高校、日進、智恵文、智北)
- ・名士バス(株)(市内5路線、郊外5路線)
- ・道北バス(株)(1路線)
- ・士別軌道(株)(1路線)
- ・ジェイ・アール北海道バス(株)(郊外1路線)
- ・北海道中央バス(株)(都市間バス1路線、共同運行)
- ・スクールバス(7路線)
- ・宗谷バス(都市間バス1路線)

協議会開催状況

- ・令和6年5月31日 令和6年度第1回協議会を開催
市外連絡バス(地域間幹線系統等)の状況について、市内路線・市街地間・郊外デマンドバスの状況について、
- ・令和6年6月14日 令和6年度第2回協議会を開催
名寄市地域公共交通網形成計画の認定申請について
- ・令和6年6月20日 令和6年度第3回協議会を開催
名寄市公共交通最適化(案)について
- ・令和6年9月12日 令和6年度第4回協議会を開催
公共交通アンケート調査結果について、専門部会中間報告について、名寄市公共交通最適化について、AI活用型オンデマンドバス21条許可申請の延長について、地域公共交通網形成計画の改訂について
- ・令和6年12月 日 令和6年度第5回協議会を開催
名寄市地域内フィーダー系統確保維持計画の事業評価について

【御料線】

●デマンドバス料金表

	日進・東生	旭	中央	緑町
対象エリア内の移動	200円 (高校生以下:100円)	200円 (高校生以下:100円)	200円 (高校生以下:100円)	200円 (高校生以下:100円)
風連市街地までの移動	400円 (高校生以下:200円)	300円 (高校生以下:150円)	250円 (高校生以下:130円)	200円 (高校生以下:100円)

令和6年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

- ・デマンド型交通については、利用者になじみのない予約型の運行システムのため、PRチラシやホームページでの周知を継続して実施している。
- ・地域住民の会合等で、公共交通全般に関する利用促進、周知啓発活動を実施している。
- ・乗降指定場所の見直しのため、アンケート調査を実施している。

2) 運行系統

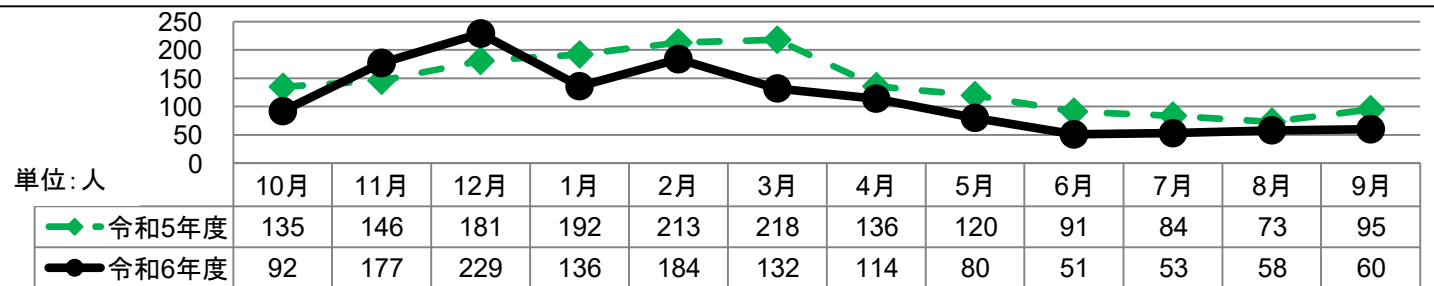
【下多寄線】



【御料線】

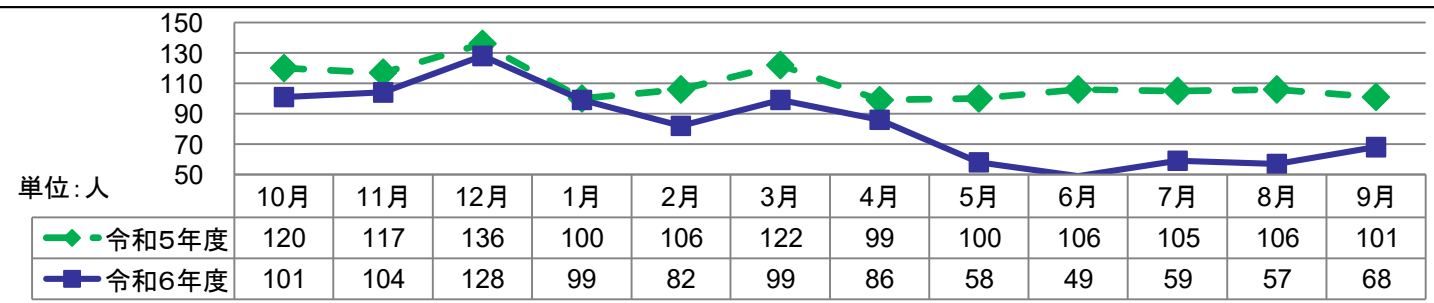


3) 利用実績



【下多寄線】

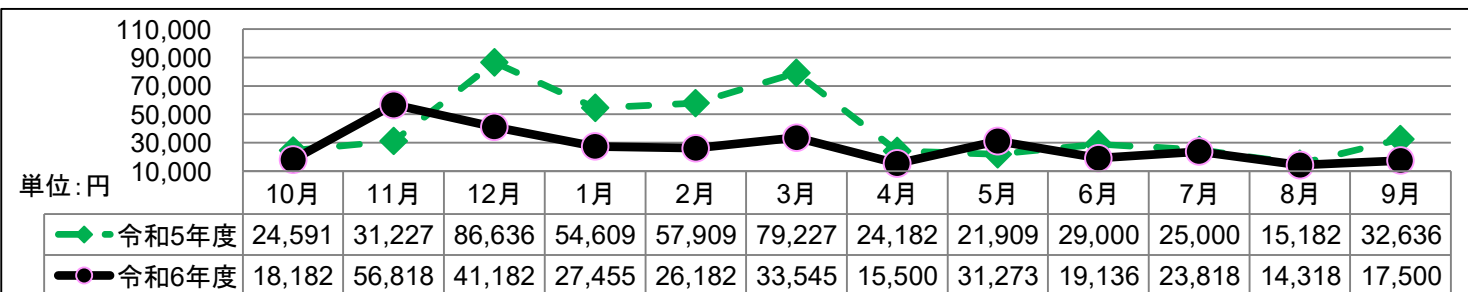
合計	内訳 (一般)	内訳 (学生)
1,684	1,349	335
1,366	1,021	345



【御料線】

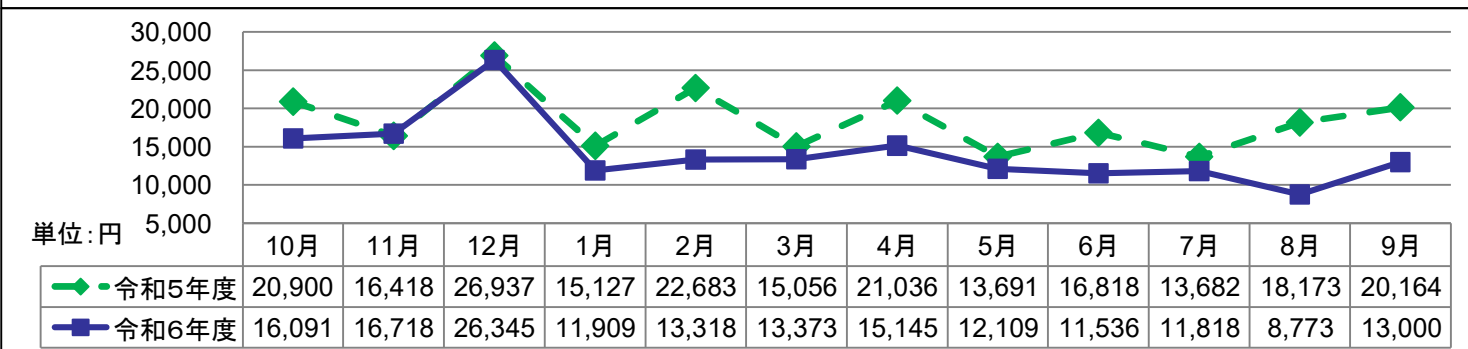
合計	内訳 (一般)	内訳 (学生)
1,318	1,318	0
990	990	0

4) 収入実績



【下多寄線】

合計
482,109
324,909



【御料線】

合計
220,685
170,136

5)事業実施の適切性

事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。

6)目標・効果達成状況

- ・デマンド型交通の利用者数の向上
 - 下多寄線
 - 月平均利用者数 目標200人／月 → 実績114人／月
 - 対象地域からの転出や自然減等による利用対象者減となり、目標値▲86人／月であった。
 - 御料線
 - 月平均利用者数 目標200人／月 → 実績83人／月
 - 対象地域からの転出や自然減等による利用対象者減となり、目標値▲117人／月であった。
- ・デマンド型交通の利用者満足度の向上
 - 下多寄線
 - 目標 100% → 100%
 - 御料線
 - 目標 100% → 100%
 - 令和6年4月～5月実施のアンケート調査において、下多寄線及び御料線の満足度が昨年に引き続き100%となった。
- ・効果
 - 冬期間のみならず、通年（下多寄線264日稼働、御料線285日稼働）の利用があり、住民への公共交通手段の提供が適切に行われた。

7)事業の今後の改善点

- 【下多寄線】

運行開始から13年を経過し地域への定着は着実に進んでいる。しかし、対象地域からの転出や自然減等による利用対象者減少により、利用者数が伸び悩む結果となった。新規利用者拡大のため、あらためて町内会等の地域住民の会合等における周知を実施していく。
- 【御料線】

運行開始から6年目を経過したところであり、引き続き地域への定着を図っていく必要がある。現状、定期利用者がおり、定着は進んでいるものの、対象地域からの転出や自然減等による利用対象者減少により、利用者数が伸び悩む結果となった。新規利用者拡大のため、あらためて町内会等の地域住民の会合等における周知を実施していく。

8)地方運輸局等における二次評価結果(案)

運輸局記載欄